

平成 2 5 年
(2013)

あわら市観光白書

平成 2 6 年 2 月

あわら市観光商工課

平成25年あわら市観光白書

1 平成25年実績

平成25年1月から12月までの1年間にあわら市を訪れた観光客数は、1,549,500人(対前年比167,700人、12.1%の増)で、このうち宿泊客は821,200人(同21,900人、2.7%の増)、日帰り客は728,400人(同145,900人、25%の増)であった。

観光地別観光客数

観光地別では、福井県随一の温泉観光地であるあわら温泉の826,900人が最も多く、次いで金津創作の森228,100人、北潟湖畔144,200人、ゴルフ場131,000人、その他(セントピアあわら、吉崎御坊等)219,300人となっている。

発地別観光客数

発地別内訳で見ると、県内客は51.5%の797,500人、県外客は48.5%の752,000人となり、おおむね半々に分かれている。

県外客の内訳では、あわら温泉が「関西の奥座敷」といわれるように、関西方面(1)からの客数が291,600人(県外客の38.8%)と最も多く、次いで中京方面(2)の163,700人、北陸(石川・富山)方面の148,200人、関東方面の75,300人の順となり、関西・中京方面からの客数が県外客全体の3分の2を占めている。

一方、国外からは、昨年1年間に日本を訪れた外国人観光客が初めて1千万人の大台を突破したこともあり、あわら温泉の外国人宿泊者数も6,951人と、前年と比較して、64.4%の高い伸びを見せた。国・地域の内訳としては、台湾からの観光客が最も多く、次いで香港、中国、シンガポールの順となっている。

(1) 関西方面とは、大阪・京都・兵庫・滋賀・奈良・和歌山の6県

(2) 中京方面とは、愛知・岐阜・三重・静岡の4県

2 平成24年との比較

あわら温泉宿泊客数増加

宿泊客をあわら温泉だけに限るとその数は806,900人で、前年の787,000人と比較して19,900人、2.5%の増となった。

これは、全国的な景気回復の基調が、秋以降あわら温泉などの観光産業にも波及を始め、入り込み数の増加につながったためではないかと考えられる。

また、中京、関東方面における旅行商品の販売とそれに伴う認知度の向上、市観光協会を中心とした出向宣伝などによる「あわら温泉」への誘客の取り組みなども奏功していると考えられる。

日帰り客数増加

日帰り客の総数は、前年比145,900人、25%の増の730,700人と大幅な増加となった。その要因としては、夏休み期間のセントピアあわらのイベントや金津創作の森の蜷川実花展をはじめとする企画展が好調だったことなどが挙げられる。

また、北潟湖畔は、ゴールデンウィーク期間の入り込み増のほか、観月の夕べにも多くの来場者があり、対前年比34.2%増の132,300人と入り込みを伸ばしている。

総合的評価

観光地ごとの状況は以上のとおりであるが、あわら市全体で見た増加の要因としては、県や他市町と連携して実施している首都圏を中心とした全国的な宣伝活動があわら温泉の知名度向上につながり、全体の底上げに結びついたものと推定される。

3 今後の対応

平成27年3月に北陸新幹線長野 - 金沢間が開業すると、首都圏、北関東、甲信越から北陸を訪れる観光客の数が大幅に増加することが予想される。加えて、その約10年後には敦賀までの県内延伸が決定しており、当面は北陸地域が観光地として注目されるものと考えられる。

また、平成26年夏には、舞鶴若狭自動車道が全線開通となり、関西・中国方面からの観光客の更なる増加が期待される。

こうした新高速交通のネットワークの形成と、本県を取り巻く交通体系の進展は、「あわら温泉」の魅力向上に大きな影響を及ぼすことになる。

この機会を逃すことのないよう、観光関係者が連携し、新しい観光資源の発掘や情報の発信はもとより、魅力ある滞在型の観光地づくりを戦略的に推し進めていくことが必要となる。

あわら市の対応

北陸新幹線金沢開業に向けて、国や県の支援により、平成25年度から芦原温泉街の修景整備に着手し、温泉情緒あふれる華やぎのまちの創出と、地域で観光客のおもてなしができる空間の形成を進めている。

あわら温泉湯のまち広場では足湯を整備するとともに、メイン道路の歩車共存道路化などを通して、温泉街への人の流れと回遊性の創出に努める。

一方、JR芦原温泉駅周辺においては、にぎわい交流広場に拠点施設を整備するとともに、金津本陣IKOSSAまでのエリアについて、回遊ルートの修景や誘導案内サインの整備、金津本陣飾り物展示施設の整備などを行うとともに、イベントなどのソフト事業の充実も図る。

このほか、イメージ戦略として、映画「利休にたずねよ」などを手掛けた田中光敏監督による観光プロモーションビデオとCMの制作や、あわら市出身のイラストレーター、中本優さんのオリジナルキャラクターを活用した「ユコちゃんプロジェクト」、漫画「ちはやふる」とのコラボレーションイベントなどを通して、市の知名度アップに向けた取り組みを進める。

平成27年10月には、JRグループによる大型観光キャンペーン「北陸デスティネーションキャンペーン」が行われるなど、北陸新幹線金沢開業の前後には、地元自治体や観光事業者などによる大規模な販売促進のイベントが北陸各地で予定されている。

あわら温泉においても、金沢開業後の平成27年には、開湯130周年の記念祭の開催を計画しているところである。

この機会を十分に活用するとともに、北陸地域が一体となって、JRや県内市町、観光団体等との連携を強化し、あわら市の立ち位置と存在感を明確にした情報発信を行い、首都圏に対して大いにアピールを行う。

広域連携

広域的な観光戦略では、現在「越前加賀広域観光推進協議会」「福井坂井奥越広域観光圏推進協議会」「芦原温泉駅ブロック観光開発協議会」「越前加賀宗教文化街道～祈りの道～推進協議会」等を通じて、近隣市町と連携した情報発信や施策の展開を図っている。

観光施策における広域連携のメリットは、「越前」「加賀」「北陸」といったエリアを前面に押し出して情報発信できることにある。全国レベルで見した場合、「あわら」という知名度は決して高くはない。そのため、こうしたエリアによる観光戦略の展開により、地域の魅力を発信し、ひいては「あわら」の魅力向上へとつなげていくものである。

さらに、こうした広域観光への取組は、国内ばかりでなく、2020年の東京オリンピック開催を視野に、これからまだまだ伸びる可能性のある外国人観光客の誘致に向けたインバウンド事業にも広げていく必要がある。